

# 歯科麻酔学

年次	学期	学則科目責任者
4年次	後学期	渋谷 鑛 (歯科麻酔学)

学修目標 (G I O) と 単位数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位数：3</li> <li>・学修目標 (G I O) :             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全身麻酔法、局所麻酔法および精神鎮静法に必要な基礎知識 (生理学、薬理学、神経学および解剖学) を習得する。</li> <li>2. 歯科治療中の全身管理学と偶発症発生時の対応について学ぶ。</li> <li>3. 救急処置に必要な知識と技術を習得する。</li> <li>4. 歯科・口腔領域の痛み治療の基礎知識と東洋医学的治療法について学ぶ。</li> </ol> </li> </ul>
担当教員	渋谷 鑛、山口 秀紀、石橋 肇、卯田 昭夫、下坂 典立、鈴木 正敏、中村 真実、※米長 悦也、※大橋 一之、※吉村 宅弘、※金子 守男、※別部 智司、※橋本 崇文、※西連寺 央康、※草間 弘朝、峯村 麻由、荒巻 さやか、佐藤 俊秀
教科書	スタンダード全身管理・歯科麻酔学 第3版 小谷順一郎 編集 学建書院 臨床経穴図 木下晴都 医道の日本社
参考図書	歯科麻酔学 第7版 金子 讓 監修 医歯薬出版 シナリオで学ぶチュートリアル歯科麻酔 住友雅人、小谷順一郎、渋谷 鑛 編 医歯薬出版 臨床に役立つ麻酔読本 鈴木 太 監修 日本醫事新報社
実習器材	聴診器、ポケットマスク、レスキューシート、静注用駆血帯 (枕付)
評価方法 (E V)	講義：授業時間内に行う平常試験 (100%) によって評価点とする。平常試験の結果に応じて、補講などの措置を講じることがある。 実習：小テスト (50%)、実習評価 (50%)。実習態度も実習評価に加味する。 講義・実習それぞれ1/5以上を欠席した場合、成績評価は0~60点とする。なお、講義について合格点 (60点) に達しない者に対し、再試験を行うが、講義を1/5以上欠席した場合、再試験の受験資格を与えない。また、講義・実習のいずれかが合格点に達しない場合、評価点は60点未満とする。 最終評価は、講義 (70%)、実習 (30%) の割合とする。
学生へのメッセージ オフィスアワー	麻酔は怖いもの、奇異なものというイメージを払拭し、安全なもの、扱いやすいものというイメージを持って欲しい。 口腔内への侵襲だけではなく、いつも全身への影響を考える意識を持つことを実習から学んで欲しい。 オフィスアワー：渋谷、山口、石橋、卯田、下坂、鈴木 月曜日16:00~17:30

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/09/20 (水) 3時限 13:10~14:40	麻酔 (科) 学概論	<p>【授業の一般目標】 麻酔の歴史の概略と歯科麻酔学の特徴を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 麻酔学の発達と歴史上の史実・変遷について述べるができる。 2. 麻酔学の重要性と今日の歯科麻酔が担うべき役割を述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 1~P. 10を熟読すること (目安時間：20分)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 17 一般教養的事項 ア 医学史、歯科医学史</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	渋谷 鑛
2017/09/20 (水) 4時限 14:50~16:20	全身管理の基本 ・全身管理に必要な生理学	<p>【授業の一般目標】 全身管理に必要な解剖学、生理学及び生化学の項目について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 呼吸の基礎知識について説明できる。 2. 循環の基礎知識について説明できる。 3. 神経の基礎知識について説明できる。 4. 代謝・内分泌の基礎知識について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 11~P. 46を熟読すること (目安時間：60分)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p>	卯田 昭夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/09/20 (水) 4時限 14:50～16:20	全身管理の基本 ・全身管理に必要な生理学	なし 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 d 生体構成成分の構造・機能 【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 e 器官系 (骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系) 【コアカリキュラム】	卯田 昭夫
2017/09/27 (水) 3時限 13:10～14:40	全身管理の基本 ・全身状態評価 ・管理上問題となる疾患の病態	【授業の一般目標】 全身状態評価と管理上問題となる疾患について理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 術前診察について説明できる。 2. 臨床検査について説明できる。 3. 手術危険度について説明できる。 4. 管理方法の選択について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P.47～P.66を熟読すること (目安時間:40分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論IX 検査 3 検体検査 イ 一般臨床検査 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VIII 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-3) 歯科麻酔の基本 E-1-3) - (1) 全身管理 *⑥歯科治療時に注意を要する全身疾患 (小児も含む) を説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】 E-1-1) 基本的診療技能 *⑤各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。	卯田 昭夫
2017/09/27 (水) 4時限 14:50～16:20	全身管理の基本 ・管理上問題となる疾患	【授業の一般目標】 全身管理上問題となる疾患について理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 呼吸器疾患について説明できる。 2. 循環器系疾患について説明できる。 3. 脳・神経疾患について説明できる。 4. 代謝・内分泌系疾患について説明できる。 5. 肝疾患について説明できる。 6. 腎疾患について説明できる。 7. 妊婦について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P.67～P.90を熟読すること (目安時間:60分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 【国家試験出題基準 (副)】	卯田 昭夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/09/27 (水) 4時限 14:50～16:20	全身管理の基本 ・管理上問題となる疾患	【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-3) 歯科麻酔の基本 E-1-3) - (1) 全身管理 *⑥歯科治療時に注意を要する全身疾患(小児も含む)を説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】 *⑨患者の全身状態評価を説明できる。	卯田 昭夫
2017/10/11 (水) 3時限 13:10～14:40	局所麻酔法	【授業の一般目標】 局所麻酔の歴史と局所麻酔薬の基礎的事項を理解する。  【行動目標 (SBOs)】 1. 局所麻酔の歴史を述べることができる。 2. 局所麻酔薬に関する神経生理学と薬剤の特徴について説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 207～P. 223を熟読すること (目安時間: 20分)  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 コ 麻酔法 a 局所麻酔 (局所麻酔法、局所麻酔薬、血管収縮薬、合併症、偶発症)  【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論X 治療 6 麻酔、緩和医療 ア 局所麻酔法  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-3) 歯科麻酔の基本 E-1-3) - (3) 局所麻酔法 *①局所麻酔の目的を説明できる。 *②局所麻酔薬を分類し、その作用機序を説明できる。 *③局所麻酔作用に影響を及ぼす因子を説明できる。	石橋 肇
2017/10/11 (水) 4時限 14:50～16:20	局所麻酔法	【授業の一般目標】 歯科用局所麻酔薬の特徴と血管収縮薬について理解する。  【行動目標 (SBOs)】 1. 歯科用局所麻酔薬の特徴と使用上の注意点について説明できる。 2. 血管収縮薬の薬理について説明できる。 3. 局所麻酔の偶発症について説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 224～P. 250を熟読すること (目安時間: 50分)  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 コ 麻酔法 a 局所麻酔 (局所麻酔法、局所麻酔薬、血管収縮薬、合併症、偶発症)  【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論X 治療 6 麻酔、緩和医療 イ 局所麻酔薬、血管収縮薬  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-3) 歯科麻酔の基本 E-1-3) - (3) 局所麻酔法 *④血管収縮薬の使用目的と種類、特徴および臨床使用上の注意を説明できる。 *⑤局所麻酔法の種類と特徴を説明できる。 *⑥局所麻酔時の合併症 (偶発症) を説明できる。	石橋 肇
2017/10/18 (水) 3時限 13:10～14:40	精神鎮静法	【授業の一般目標】 精神鎮静法について理解する。	石橋 肇

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
	精神鎮静法	<p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 精神鎮静法の適応症、選択及び管理方法について列挙できる。 2. 静脈内鎮静法及び吸入鎮静法の適応と使用薬剤及び管理方法を具体的に説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P.195～P.201を熟読すること (目安時間：10分)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 コ 麻酔法 c 精神鎮静法 (吸入鎮静法、静脈内鎮静法)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論X 治療 6 麻酔、緩和医療 ケ 吸入鎮静法、静脈内鎮静法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-3) 歯科麻酔の基本 E-1-3)-(2) 精神鎮静法 *①精神鎮静法の特徴と目的および種類を説明できる。 *②吸入鎮静法の適応と禁忌および使用薬物を説明できる。 *③静脈内鎮静法の適応と禁忌および使用薬物を説明できる。 *④精神鎮静法の周術期の管理を説明できる。</p>	石橋 肇
2017/10/18 (水) 4時限 14:50～16:20	精神鎮静法	<p>【授業の一般目標】 精神鎮静法の実際について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 精神鎮静法の実際について述べるができる。 2. 精神鎮静法後の帰宅許可の基準について述べるができる。 3. 精神鎮静法後の患者への注意事項を述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P.202～P.205を熟読すること (目安時間：10分)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 コ 麻酔法 c 精神鎮静法 (吸入鎮静法、静脈内鎮静法)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論X 治療 6 麻酔、緩和医療 ケ 吸入鎮静法、静脈内鎮静法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-3) 歯科麻酔の基本 E-1-3)-(2) 精神鎮静法 *④精神鎮静法の周術期の管理を説明できる。</p>	石橋 肇
2017/10/25 (水) 3時限 13:10～14:40	患者管理の実際 (その1) バイタルサインと モニタリングの実 際 ・10月29日から11 月19日の患者管理 の実際その1～4) は4班に分けてグ ループごとにロー テーションで行う。	<p>【授業の一般目標】 バイタルサインについて理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 歯科外来の一般的医療面接項目を列挙できる。 2. 合併症を有する患者の対診時の実際について説明できる。 3. バイタルサインについて説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 1. 医療面接について説明できる。 2. バイタルサインを列挙し、概要を述べるができる。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】</p>	渋谷 鐘 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立 鈴木 正敏 中村 真実 米長 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/10/25 (水) 3時限 13:10～14:40	患者管理の実際 (その1) バイタルサインと モニタリングの実際 ・10月29日から11 月19日の患者管理 の実際その1～4) は4班に分けてグ ループごとにロー テーションで行う。	講義 【場所(教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 10 診察の基本 オ 全身の診察 c バイタルサイン (呼吸、脈拍、血圧、体温) 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅷ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 オ 診察 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-3) 歯科麻酔の基本 E-1-3) - (1) 全身管理 *①バイタルサインを列挙し、説明できる。 *②血圧を測定し、状況を把握できる。 *③脈拍数を測定し、状況を把握できる。 *④呼吸数を測定し、状況を把握できる。	佐藤 俊秀
2017/10/25 (水) 4時限 14:50～16:20	患者管理の実際 (その1) バイタルサインと モニタリングの実際	【授業の一般目標】 バイタルサインを測定できる。 【行動目標(SBOs)】 1. バイタルサインの的確な把握とその実際を行うことができる。 2. 血圧測定を行うことができる。緊急時の測定ができる。 3. モニタリングを実際に行うことができる。 4. 血糖測定を行い数値の解釈ができる。 5. 歯科麻酔学救急キットの器具の使用方法について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 バイタルサインを列挙し、説明ができる。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略(LS)】 実習 【場所(教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 10 診察の基本 オ 全身の診察 c バイタルサイン (呼吸、脈拍、血圧、体温) 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅷ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 オ 診察 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-3) 歯科麻酔の基本 E-1-3) - (1) 全身管理 *①バイタルサインを列挙し、説明できる。 *②血圧を測定し、状況を把握できる。 *③脈拍数を測定し、状況を把握できる。 *④呼吸数を測定し、状況を把握できる。	渋谷 鏡 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立 鈴木 正敏 中村 真実 米村 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 佐藤 俊秀
2017/11/01 (水) 3時限 13:10～14:40	患者管理の実際 (その2) 東洋医学的治療法 と針・灸の実技	【授業の一般目標】 東洋医学について理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 東洋医学療法の概略を説明できる。 2. 東洋医学と西洋医学の違いについて説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「臨床経穴図」序およびはしがきを熟読すること(目安時間:5分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略(LS)】 実習 【場所(教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準(主)】 【国家試験出題基準(副)】 【コアカリキュラム】	渋谷 鏡 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立 鈴木 正敏 中村 真実 米村 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 佐藤 俊秀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/11/01 (水) 4時限 14:50~16:20	患者管理の実際 (その2) 東洋医学的治療法 と針・灸の実技	<p>【授業の一般目標】 東洋医学的治療法を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯科口腔領域に用いられる経穴・経絡を列挙できる。 2. 鍼灸治療の実際を説明できる。 3. 針の弾入、刺針、置針を含めた針の操作を行える。 4. 灸法について述べるができる。 5. 針麻酔 (和痛) の概念を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「臨床経穴図」序およびはしがきを熟読すること (目安時間: 5分)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	渋谷 鑞 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立 鈴木 正敏 中村 真実 米村 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 佐藤 俊秀
2017/11/08 (水) 3時限 13:10~14:40	患者管理の実際 (その3) 救急処置 (1)	<p>【授業の一般目標】 心肺蘇生法を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 気道閉塞及び気道確保について説明できる。 2. 胸骨圧迫について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 287~P. 315を熟読すること (目安時間: 60分)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 13 初期救急 イ 救急処置 a 一次救命処置&lt;BLS&gt;、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、除細動、静脈路確保、酸素療法、基本的救急薬品、止血法、輸液療法、輸血</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論X 治療 3 救急医療 ウ 成人に対する一次救命処置</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-5) 救急処置 *②意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。 *③気道閉塞および気道確保法を説明できる。【誤嚥・誤飲時の症状と対応を含む】 *④気道確保と呼吸吹き込みによる人工呼吸を実施できる。 *⑤胸骨圧迫と自動的体外式除細動器 (AED) の操作を実施できる。</p>	渋谷 鑞 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立 鈴木 正敏 中村 真実 米村 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 佐藤 俊秀
2017/11/08 (水) 4時限 14:50~16:20	患者管理の実際 (その3) 救急処置 (1)	<p>【授業の一般目標】 心肺蘇生法を行うことができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 意識、呼吸及び脈拍の状態を把握できる。 2. 気道閉塞の解除及び気道確保を行える。 3. 呼吸吹き込み式人工呼吸を行える。 4. 胸骨圧迫を行える。 5. AEDを使用できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 後日配布する「救急蘇生法」プリントを熟読すること。 (目安時間40分)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 13 初期救急</p>	渋谷 鑞 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立 鈴木 正敏 中村 真実 米村 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 佐藤 俊秀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/11/08 (水) 4時限 14:50～16:20	患者管理の実際 (その3) 救急処置(1)	イ 救急処置 a 一次救命処置<BLS>、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、除細動、静脈路確保、酸素療法、基本的救急薬品、止血法、輸液療法、輸血  【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論X 治療 3 救急医療 カ 窒息・誤飲・誤嚥に対する対応  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-5) 救急処置 *②意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。 *③気道閉塞および気道確保法を説明できる。【誤嚥・誤飲時の症状と対応を含む】 *④気道確保と呼吸吹き込みによる人工呼吸を実施できる。 *⑤胸骨圧迫と自動的体外式除細動器(AED)の操作を実施できる。	渋谷 鏡 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立 鈴木 正敏 中村 真実 米村 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 佐藤 俊秀
2017/11/15 (水) 3時限 13:10～14:40	患者管理の実際 (その4) 救急処置(2)	【授業の一般目標】 心肺蘇生法を行える。  【行動目標(SBOs)】 1.安全にAEDを使用できる。 2.心肺蘇生法を手順通り行える。  【準備学修項目と準備学修時間】 後日配布する「救急蘇生法」プリントを熟読すること。(目安時間40分)  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし  【学修方略(LS)】 実習  【場所(教室/実習室)】 302教室、第1実習室  【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 13 初期救急 イ 救急処置 a 一次救命処置<BLS>、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、除細動、静脈路確保、酸素療法、基本的救急薬品、止血法、輸液療法、輸血  【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論X 治療 3 救急医療 オ 成人・小児に対する二次救命処置  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-5) 救急処置 *②意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。 *③気道閉塞および気道確保法を説明できる。【誤嚥・誤飲時の症状と対応を含む】 *④気道確保と呼吸吹き込みによる人工呼吸を実施できる。 *⑤胸骨圧迫と自動的体外式除細動器(AED)の操作を実施できる。 *⑥救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序を説明できる。	渋谷 鏡 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立 鈴木 正敏 中村 真実 米村 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 佐藤 俊秀
2017/11/15 (水) 4時限 14:50～16:20	患者管理の実際 (その4) 救急処置(2)	【授業の一般目標】 救急蘇生法を行える。  【行動目標(SBOs)】 1.傷病者発見から短時間で心肺蘇生法を開始できる。 2.心肺蘇生法の手順をスムーズに実施できる。 3.AEDを安全に使用できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 後日配布する「救急蘇生法」プリントを熟読すること。(目安時間40分)  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし  【学修方略(LS)】 実習  【場所(教室/実習室)】 302教室、第1実習室  【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 13 初期救急 イ 救急処置 a 一次救命処置<BLS>、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、除細動、静脈路確保、酸素療法、基本的救急薬品、止血法、輸液療法、輸血  【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論X 治療 3 救急医療 ウ 成人に対する一次救命処置	渋谷 鏡 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立 鈴木 正敏 中村 真実 米村 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 佐藤 俊秀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/11/15 (水) 4時限 14:50~16:20	患者管理の実際 (その4) 救急処置(2)	【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-5) 救急処置 *②意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。 *③気道閉塞および気道確保法を説明できる。【誤嚥・誤飲時の症状と対応を含む】 *④気道確保と呼吸吹き込みによる人工呼吸を実施できる。 *⑤胸骨圧迫と自動的体外式除細動器(AED)の操作を実施できる。 *⑥救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序を説明できる。	渋谷 鑪 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立 鈴木 正敏 中村 真実 米長 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 佐藤 俊秀
2017/11/22 (水) 3時限 13:10~14:40	平常試験1及び解説講義	【授業の一般目標】 これまでの授業内容を理解する。  【行動目標(SBOs)】 1. これまでの授業内容について述べるができる。  【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの授業内容を復習する。(目安時間3時間)  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし  【学修方略(LS)】 その他  【場所(教室/実習室)】 302教室、第1実習室  【国家試験出題基準(主)】  【国家試験出題基準(副)】  【コアカリキュラム】	渋谷 鑪 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立
2017/11/22 (水) 4時限 14:50~16:20	全身管理法(ビデオ供覧)	【授業の一般目標】 全身管理法を理解する。  【行動目標(SBOs)】 1. 全身管理法について述べるができる。  【準備学修項目と準備学修時間】 全身管理法について復習する。(目安時間60分)  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし  【学修方略(LS)】 講義  【場所(教室/実習室)】 302教室、第1実習室  【国家試験出題基準(主)】  【国家試験出題基準(副)】  【コアカリキュラム】	渋谷 鑪 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立 鈴木 正敏
2017/11/29 (水) 3時限 13:10~14:40	全身麻酔法 ・全身麻酔の概念 と方法 ・術前管理	【授業の一般目標】 全身麻酔法について理解する。  【行動目標(SBOs)】 1. 全身麻酔法の適応と術前評価について説明できる。 2. 前投薬の使用法と薬理学的作用を説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P.91, P.56~P.58, P.63~P.66 を熟読すること(目安時間:20分)  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし  【学修方略(LS)】 講義  【場所(教室/実習室)】 302教室、第1実習室  【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 コ 麻酔法 b 全身麻酔 (吸入麻酔法、静脈麻酔法)  【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論X 治療 6 麻酔、緩和医療	渋谷 鑪 山口 秀紀



日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/11/29 (水) 3時限 13:10~14:40	全身麻酔法 ・全身麻酔の概念 と方法 ・術前管理	ウ 全身麻酔法 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-3) 歯科麻酔の基本 E-1-3) - (4) 全身麻酔法 *①全身麻酔の目的と種類ならびに特徴を説明できる。【前投薬、筋弛緩薬および主な全身麻酔薬の基本的薬理作用および使用機器・器具を含む。】 *②全身麻酔の適応と禁忌および合併症を説明できる。	渋谷 鏡 山口 秀紀
2017/11/29 (水) 4時限 14:50~16:20	全身麻酔法 ・吸入麻酔薬 ・静脈麻酔薬	【授業の一般目標】 全身麻酔法の種類を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 吸入麻酔薬及び静脈麻酔薬の薬理学的性質について説明できる。 2. 吸入麻酔薬及び静脈麻酔薬の導入、維持及び覚醒について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 92~P. 125を熟読すること (目安時間: 40分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 コ 麻酔法 b 全身麻酔 (吸入麻酔法、静脈麻酔法) 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論X 治療 6 麻酔、緩和医療 エ 吸入麻酔薬、静脈麻酔薬 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-3) 歯科麻酔の基本 E-1-3) - (4) 全身麻酔法 *①全身麻酔の目的と種類ならびに特徴を説明できる。【前投薬、筋弛緩薬および主な全身麻酔薬の基本的薬理作用および使用機器・器具を含む。】 *②全身麻酔の適応と禁忌および合併症を説明できる。 *③全身麻酔時の周術期の管理を説明できる。	渋谷 鏡 山口 秀紀
2017/12/06 (水) 3時限 13:10~14:40	全身麻酔法 ・筋弛緩薬 ・気道管理 ・麻酔装置と麻酔法 ・術中管理	【授業の一般目標】 全身麻酔を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 筋弛緩薬の生理・薬理学的機序を説明できる。 2. 全身麻酔中の気道確保の意義と方法について説明できる。 3. 全身麻酔法に必要な器具・器材について説明できる。 4. 全身麻酔中の呼吸、循環及び代謝管理の方法と生理学的問題点について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 127~P. 134, P. 141~156を熟読すること (目安時間: 40分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 コ 麻酔法 b 全身麻酔 (吸入麻酔法、静脈麻酔法) 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論X 治療 6 麻酔、緩和医療 ウ 全身麻酔法 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-3) 歯科麻酔の基本 E-1-3) - (4) 全身麻酔法 *①全身麻酔の目的と種類ならびに特徴を説明できる。【前投薬、筋弛緩薬および主な全身麻酔薬の基本的薬理作用および使用機器・器具を含む。】 *②全身麻酔の適応と禁忌および合併症を説明できる。	渋谷 鏡 山口 秀紀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/12/06 (水) 3時限 13:10~14:40	全身麻酔法 ・筋弛緩薬 ・気道管理 ・麻酔装置と麻酔法 ・術中管理	*③全身麻酔時の周術期の管理を説明できる。	渋谷 鏡 山口 秀紀
2017/12/06 (水) 4時限 14:50~16:20	全身麻酔法 ・気管麻酔 ・術後管理	<p>【授業の一般目標】 全身麻酔法について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 気管麻酔の実際について説明できる。 2. 術後管理の意義と目的を述べることができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 157~P. 162を熟読すること (目安時間: 20分)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 コ 麻酔法 b 全身麻酔 (吸入麻酔法、静脈麻酔法)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論X 治療 6 麻酔、緩和医療 ウ 全身麻酔法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-3) 歯科麻酔の基本 E-1-3) - (4) 全身麻酔法 *①全身麻酔の目的と種類ならびに特徴を説明できる。【前投薬、筋弛緩薬および主な全身麻酔薬の基本的薬理作用および使用機器・器具を含む。】 *②全身麻酔の適応と禁忌および合併症を説明できる。 *③全身麻酔時の周術期の管理を説明できる。</p>	渋谷 鏡 山口 秀紀
2017/12/13 (水) 3時限 13:10~14:40	小児の麻酔管理 障害者の麻酔管理	<p>【授業の一般目標】 小児と障害者の麻酔管理法を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 小児の全身麻酔管理の特徴について説明できる。 2. 障害者の麻酔管理の特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 171~P. 186を熟読すること (目安時間: 30分)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 コ 麻酔法 b 全身麻酔 (吸入麻酔法、静脈麻酔法)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論X 治療 6 麻酔、緩和医療 ウ 全身麻酔法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-3) 歯科麻酔の基本 E-1-3) - (4) 全身麻酔法 *③全身麻酔時の周術期の管理を説明できる。</p>	山口 秀紀
2017/12/13 (水) 4時限 14:50~16:20	口腔外科手術と全身麻酔 歯科患者の日帰り麻酔	<p>【授業の一般目標】 口腔外科手術の全身麻酔と歯科患者の日帰り麻酔を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯科・口腔外科手術のための全身麻酔の特徴について説明できる。 2. 歯科・口腔外科手術の日帰り麻酔の特徴と留意点について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p>	山口 秀紀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/12/13 (水) 4時限 14:50～16:20	口腔外科手術と全身麻酔 歯科患者の日帰り麻酔	<p>教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P.163～P.170を熟読すること (目安時間:20分)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 コ 麻酔法 b 全身麻酔 (吸入麻酔法、静脈麻酔法)</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論X 治療 6 麻酔、緩和医療 ウ 全身麻酔法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-3) 歯科麻酔の基本 E-1-3)-(4) 全身麻酔法 *③全身麻酔時の周術期の管理を説明できる。</p>	山口 秀紀
2017/12/20 (水) 3時限 13:10～14:40	高齢者の麻酔管理 訪問歯科診療における患者管理	<p>【授業の一般目標】 高齢者の麻酔管理と訪問歯科診療における患者管理を理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 高齢者の麻酔管理の特徴について説明できる。 2. 高齢者歯科患者の全身リスク評価について説明できる。 3. 訪問歯科診療における患者管理の特徴について説明できる。 4. 訪問歯科診療における感じリスク評価について述べる事ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P.187～P.194を熟読すること (目安時間:20分)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 ホ 患者管理の基本 b 全身管理に留意すべき疾患・対象 (気管支炎、気管支喘息、肺炎、慢性閉塞性肺疾患 &lt;COPD&gt;、心筋梗塞、狭心症、高血圧症、心不全、心内膜炎、脳出血、脳梗塞、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、急性・慢性肝炎、肝硬変、胃食道逆流症 &lt;GERD&gt;、腎炎、慢性・急性腎不全、貧血、急性白血病、出血性素因、血友病、von Willebrand 病、糖尿病、骨粗鬆症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副腎機能亢進症、副腎機能低下症、膠原病、後天性免疫不全症候群 &lt;AIDS&gt;、認知症、統合失調症、うつ病、双極性障害、てんかん、Alzheimer 病、Parkinson 病、アルコール・薬物依存症、悪性腫瘍、周術期、妊婦、小児、高齢者、免疫不全、臓器移植患者、菌交代現象&lt;菌交代症&gt;)</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論X 治療 2 治療の基礎 シ 高齢者の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-3) 歯科麻酔の基本 E-1-3)-(1) 全身管理 *⑥歯科治療時に注意を要する全身疾患(小児も含む)を説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】 *⑦患者の服用薬物と歯科治療の関連について説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】 *⑧小児、妊婦、授乳婦および高齢者の歯科治療時の注意点を説明できる。 *⑨患者の全身状態評価を説明できる。</p>	山口 秀紀
2017/12/20 (水) 4時限 14:50～16:20	全身疾患を有する患者の全身麻酔法	<p>【授業の一般目標】 全身疾患を有する患者の全身麻酔法について理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 全身疾患を有する患者への麻酔管理上の留意点について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P.67～P.90を熟読すること (目安時間:50分)</p>	山口 秀紀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/12/20 (水) 4時限 14:50～16:20	全身疾患を有する患者の全身麻酔法	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 コ 麻酔法 b 全身麻酔（吸入麻酔法、静脈麻酔法）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 ホ 患者管理の基本 b 全身管理に留意すべき疾患・対象（気管支炎、気管支喘息、肺炎、慢性閉塞性肺疾患＜COPD＞、心筋梗塞、狭心症、高血圧症、心不全、心内膜炎、脳出血、脳梗塞、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、急性・慢性肝炎、肝硬変、胃食道逆流症＜GERD＞、腎炎、慢性・急性腎不全、貧血、急性白血病、出血性素因、血友病、von Willebrand病、糖尿病、骨粗鬆症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副腎機能亢進症、副腎機能低下症、膠原病、後天性免疫不全症候群＜AIDS＞、認知症、統合失調症、うつ病、双極性障害、てんかん、Alzheimer病、Parkinson病、アルコール・薬物依存症、悪性腫瘍、周術期、妊婦、小児、高齢者、免疫不全、臓器移植患者、菌交代現象＜菌交代症＞）</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-3) 歯科麻酔の基本 E-1-3)-(1) 全身管理 *⑥歯科治療時に注意を要する全身疾患(小児も含む)を説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】 *⑦患者の服用薬物と歯科治療の関連について説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】</p>	山口 秀紀
2018/01/10 (水) 3時限 13:10～14:40	疼痛治療・管理方法 ・痛みの生理学 ・痛みの病態と治療	<p>【授業の一般目標】 顎顔面の痛みを理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 神経疾患の特徴と痛みのメカニズムについて説明できる。 2. 三叉神経痛、顔面神経障害の病態と治療方法について説明できる。 3. 非定型顔面痛の発生機序と治療方法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P.251～P.268を熟読すること （目安時間：30分）</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 t 神経疾患、心因性病態</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論IV 顎・口腔領域の疾患 13 神経疾患 ア 三叉神経痛 イ 舌咽神経痛 ウ 非定型顔面痛、非歯原性歯痛 オ 舌痛症 カ 癌性疼痛 キ 舌神経麻痺 ク 顔面神経麻痺 ケ 軟口蓋麻痺 コ Ramsay-Hunt 症候群＜Hunt症候群＞ サ 顔面けいれん</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-5) 心因性疾患 *③口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の心因性の痛みを説明できる。 *⑤舌痛症を概説できる。</p>	渋谷 鏡 下坂 典立 別部 智司
2018/01/10 (水) 4時限 14:50～16:20	疼痛療法・管理方法 ・東洋医学的療法	<p>【授業の一般目標】 東洋医学的療法を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 東洋医学的療法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p>	渋谷 鏡 下坂 典立 別部 智司

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/01/10 (水) 4時限 14:50～16:20	疼痛療法・管理方法 ・東洋医学的療法	実習で行った東洋医学について復習する。(目安時間20分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準(主)】 【国家試験出題基準(副)】 【コアカリキュラム】	渋谷 鏡 下坂 典立 別部 智司
2018/01/17 (水) 3時限 13:10～14:40	歯科治療時の全身的偶発症	【授業の一般目標】 歯科治療時の全身的偶発症を理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 歯科治療中の全身的偶発症の成因、評価及び治療方法について述べるができる。 2. 各種ショックの分類、成因と病態及び使用薬剤について述べるができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 1. 歯科治療中の全身的偶発症を列挙できる。 2. ショックを分類し、その項目を列挙できる。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論X 治療 4 患者管理 エ 全身的偶発症 【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 13 初期救急 イ 救急処置 b 救急処置を要する症状(失神、意識障害、ショック、けいれん、呼吸困難、胸痛、嘔吐、皮膚症状、誤飲と誤嚥) 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-5) 救急処置 *①歯科治療時の全身合併症(偶発症)を説明できる。	渋谷 鏡
2018/01/17 (水) 4時限 14:50～16:20	歯科領域の医療事故について	【授業の一般目標】 医療事故・過誤について理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 麻酔・歯科麻酔関係の医療事故からその対応について述べるができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P.269～P.286, P.316～P.326を熟読すること(目安時間:20分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 4 歯科医療の質と安全の確保 イ 医療事故の防止 a 医療事故と医療過誤 【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 4 歯科医療の質と安全の確保 イ 医療事故の防止 b 医療事故の発生要因 【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-5 歯科医療における安全性への配慮と危機管理 A-5-1) 安全性の確保 *①歯科医療における事故の特異性を説明できる。 *②実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。 *③医療上の事故等を防止するには、個人の注意力はもとより組織的なリスク	渋谷 鏡

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/01/17 (水) 4時限 14:50～16:20	歯科領域の医療事故について	管理が重要であることを説明できる。 A-5-2) 医療上の事故等への対処と予防 *①医療事故と医療過誤の違いを説明できる。	渋谷 鏡
2018/01/24 (水) 3時限 13:10～14:40	平常試験2及び解説講義	<p>【授業の一般目標】 これまでの授業内容を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. これまでの授業内容について述べることができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの授業内容を復習する。(3時間)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	渋谷 鏡 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立
2018/01/24 (水) 4時限 14:50～16:20	平常試験3及び解説講義	<p>【授業の一般目標】 これまでの授業内容を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. これまでの授業内容について述べることができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの授業内容を復習する。(目安時間3時間)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	渋谷 鏡 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立